



絆

きずな

平成26年7月
第43号
荒川区立南千住第二中学校
校長 齊藤 進

ナンちゃん・ニーくん



生徒からの贈り物 ～ がんばったことで得られたもの ～

校長 齊藤 進

「顧問の先生を都大会に連れて行ってあげたかった。」この言葉を聞いて、胸を熱くしました。その生徒は試合後、一人教室で涙を流していました。不甲斐ない自分への悔しさがあつたのかも知れません。女子バレー部はあと1セットを取れば都大会というところまでがんばりました。土日練習し、がんばってきました。それだけに、悔しさも相当なものだったと思います。

運動部や吹奏楽部の3年生にとって、この夏は最後の試合になります。それだけに勝つ喜び、負ける悔しさも人一倍でしょう。自分たちが都大会へ行きたかったと、悔しさを表すことはあつても、冒頭の言葉を耳にすることはなかなかありません。そこには、普段から指導してくれた顧問の先生に対し感謝の気持ちをもち、恩を感じたからではないでしょうか。

女子生徒の姿に、サッカーワールドカップ日本代表、長友選手が「ザッケローニ監督を勝たせてあげたかった。」と涙ながらにインタビューに応えた姿が重なりました。監督への感謝や恩を感じたからこそその言葉だったと思います。かの米国の文化人類学者ルースベネディクトは名著「菊と刀」の中で「日本人は恩に報い、感謝することを非常に重視する国民である。」と言っています。

コロンビア戦に敗れ決勝トーナメントに進めなくなったとき日本チームは観客に向かって頭を下げました。それは、期待に応えられなかったことへの謝罪であり、サポーターの応援への感謝だったと言う人がいます。負けて頭を下げることは日本の文化を象徴することであり、サッカー日本代表チームの品位は学ぶに値するものといった海外の報道もありました。品位と言え、試合が終わった後のサポーターによるゴミ拾いも世界中に大きく報道されました。ワールドカップで勝利することはできませんでしたが、日本代表チームやサポーターが価値ある足跡を残してくれました。

さて、最後のミーティングで顧問の中陳先生が1日の試合を振り返り、「うまくいかないことを感じたと思う。人生だつてうまくいかないことがたくさんある。そのときどう自分をコントロールしていくかが大切なんだ。」と生徒に話しました。

女子バレー部の3年生は、試合に負け、賞状やトロフィーを手にするにはできませんでしたが、その代わりに、感謝、恩、友情、思いやりなど、人として成長する上で大切なものを手に入れることができたと思います。うまくいかないときどう自分をコントロールしていくかの大切さを学ぶことができたと思います。それはがんばった者にこそ与えられる何物にもかえがたい最高のプレゼントではないでしょうか。

長い人生、全力でがんばることってそれほど多くはありません。どうかがんばった自分をほめてください。そして誇りに思ってください。

生徒から感動という贈り物をもらいました。生徒に感謝です。



2年生 下田移動教室

6月16日(月)から18日(水)、2年生下田移動教室が行われました。梅雨の真っ直中の3日間でしたが、比較的天候に恵まれ、ほぼ予定通りに実施することができました。万が一が心配される大震災と津波に配慮したコースでした。

1日目はバスで学校を出発し、「パノラマパーク」に向かいました。班ごとにロープウェイのゴンドラに乗り込み、風のさわやかな山頂に向かいました。山頂での昼食、そしてソフトクリームは格別でした。夜のレクリエーションは、各班の「出し物」で大盛り上がりでした。

2日目は宿舎から歩いて「下田海中水族館」に行きました。途中通り抜けた下田公園の紫陽花がみごとでした。水族館見学後は「寝姿山」へ。下田湾を望む絶景でした。夜は「脱出ゲーム」に挑戦。ほとんどの班が脱出に成功しました。

3日目は朝から小雨のため「柿田川親水公園」での昼食は断念しましたが、バス内で昼食をとり、お土産をたくさん買い込んで予定より少し早く東京に戻りました。

2年生は、「笑顔で団結3日間」を目標・合い言葉に下田移動教室に臨みました。全員がみんなのことを考え、ルールとマナーを守り、大きな成果を上げることができた3日間でした。



パノラマパーク山頂で学年集合写真



紫陽花の咲く下田公園を歩く



下田海中水族館

進路説明会

6月14日(土)の授業公開日3校時には、今年度第1回進路説明会を実施しました。3学年生徒全員と1,2年生も含めた希望する保護者約90名が参加しました。会の中では、進路選択の心構えや今後の予定、上級学校の種類、入試の仕組みと受験計画などが説明されました。何より誠実に中学校生活を送り、勉強に取り組むことが大切であることも分かりました。

さて、進路選択に欠かせないのはやはり勉強です。まずは、しっかりと勉強に取り組むことができる忍耐力を身につけることが必要です。そこで今年度南千住二中では「南二中自習教室」を始めました。毎週水曜日の2時半(6校時の日は3時半頃から)から4時半まで、静かな中で落ち着いて自習する力を養います。指導して下さる3人の先生もいます。1年生から3年生まで誰でも参加できます。ぜひ申し込んで参加して下さい。



南二中自習教室

1年生 校外学習(地域学習)

7月4日(金)、小雨が降る中、1年生の校外学習が行われました。毎年、1年生の校外学習は、地域学習の一環として、午前中は南千住地域の史跡や文化財を巡り、午後からは荒川総合スポーツセンターで行われている「あらかわの伝統技術展」を見学します。

この日も1年生は、素盞雄神社や回向院、浄閑寺、石浜神社、赤レンガ塀など、自分たちが考えたコースを班ごとに巡り見学しました。昼にはスポーツセンターに集合し、大体育室のギャラリーで昼食(弁当)をとらせていただきました。毎年、階下で行われている伝統技術展の邪魔にならないように、とても静かに行儀良く昼食をとりお褒めの言葉をいただいています。今年度も立派な態度でした。



小さな案内板もしっかりチェック

1年生はこの校外学習を通し、南千住地域の歴史的価値を再認識し、また、荒川区のたくさんの職人さんたちによる伝統的な技術を目の当たりにし、地域に対する誇りをより強めました。



素盞雄神社で班写真



職人さんのお話を聞く

2年生 勤労留学

7月7日(月)～11日(金)までの5日間、2年生は勤労留学(職場体験)を行いました。今年度お世話になった

事業所は全部で37箇所を上り、96名の2年生が2～5人程度に分かれ、それぞれの職場で仕事の体験をさせていただきました。事前の7月1日(火)には、校内ハローワークとして足立ハローワークの小林さんにご来校いただき、社会に出て働くことについての講話もいただきました。

「仕事は大変」という漠然としたイメージはもっていましたが、実際に仕事をしてみると本当の大変さが身にしみてよく分かりました。どの職場でも必ず指導を受けたのは「あいさつ」と「礼儀」でした。簡単そうですが、これがなかなかうまくいきません。お客様に失礼がないように、また、従業員同士のコミュニケーションのためにも欠かせないものだと分かりました。

職場の皆様は忙しい中、手取り足取り指導して下さいました。5日間で、少しでも仕事も覚えてきました。大変さだけでなく、楽しさややりがいも感じられるようになりました。今後、自分たちが社会に出て実際に働くために、今、自分たちに求められていること、やらなければならないこともわかり始めました。お世話になった事業所の皆さん、ありがとうございました。



三河島保育園



佐川急便



フレックスエンジニアリング

部活動の活躍

運動部は、3年生にとって最後の公式大会となる「夏の大会(夏季大会兼総合体育大会)」が行われました。結果は悲喜交々ですが、どの部も充実した感動的な大会になりました。

- 《サッカー部》 区大会 2回戦進出 2回戦はPK戦の末、惜しくも敗退
- 《ソフトテニス部》 区大会 個人戦 女子 **ベスト8** 2ペア ベスト16 1ペア
男子 ベスト16 1ペア
団体戦 女子 **準優勝 都大会出場決定** 決勝は大接戦
男子 善戦しましたが、惜しくも一次リーグ敗退
- 《バスケットボール部》 区大会 女子 2回戦進出 優勝チームに善戦
男子 **優勝 都大会出場決定** 苦しい試合を逆転
- 《バレーボール部》 区大会 男子 **優勝** 他を寄せ付けず圧勝
女子 **準優勝** 男女ともに第5ブロック大会進出
第5ブロック大会 男子 **第3位 都大会出場決定**
女子 **ベスト8** 都大会まであと1セットの健闘
- 《陸上競技部》 東京都地域別陸上競技大会 共通女子 200m 3年女子 28秒03
1年男子 100m 1年男子 12秒87 **標準記録突破 都大会出場決定**
同大会に出場した他の部員(3年男子4名・女子3名、2年男子2名・女子1名、1年男子2名)も暑い中、健闘

4つの部で都大会出場権を獲得する素晴らしい結果でした。

南千住マイスターのコーナー

南千住と歴史上の人物 その4
『安政の大獄(1) 吉田松陰』

南千住の小塚原には昔お仕置き場、つまり処刑場がありました。その関係で回向院には多くの罪人の墓があります。その中で罪人といふより、時の江戸幕府に反旗を翻したことで囚われ、処刑された歴史上の偉人の墓も残されています。井伊大老が肅正のため行った安政の大獄で処刑された『吉田松陰』もその一人です。

吉田松陰は文政13年(1830年)8月、長州藩の下級武士の二男として萩の松本村に生まれました。幼少の頃、叔父が開いた松下村塾で指導を受け、11歳の時、藩主への御前講義の出来栄が見事であったことにより、早くもその才能が認められていました。嘉永7年(1854年)、ペリー2度目の来航の際、弟子とともに伊豆下田で密航計画(荒川区の移動教室が下田で行われるもの)の縁があるのかもしれないを企てるも失敗し、萩の野山獄に幽囚されてしまいました。その後、生家で預かりの身となりますが、叔父の後を継いで松下村塾を引き受けて主宰者となりました。そこではかの有名な高杉晋作、伊藤博文、山県有朋など、維新の指導者となる人材を教えたことから明治維新の事実上の精神的理論者として、不世出の教育者といわれます。安政5年(1858年)、幕府が日米修好通商条約を結ぶと松陰は激しくこれを非難、老中・間部詮勝の暗殺を企てます。長州藩は警戒して再び松陰を投獄しますが、翌年、幕府の安政の大獄により松陰は江戸に送致されます。松陰は老中暗殺計画を自供して自らの思想を語り、同年、江戸伝馬町の獄において斬首刑に処されました。享年わずか30歳でした。この時獄中で遺書として門弟達に向けて維新の教科書ともいえる『留魂録』を書き残しています。そして幕府によって大罪人とされた松陰は南千住回向院に葬られたのです。明治になり名誉は回復され、世田谷区の松陰神社に改葬されましたが、今でも回向院に墓石が残されているのです。



小塚原回向院 吉田松陰墓石